

■ 概況

6/28~7/4のNYMEX・WTIは、73.45~74.15ドルの範囲で堅調に推移した。

7月5日は、需給ひっ迫感が高まる中、一日遅れで発表されたEIAの米国在庫週報で、原油在庫が市場予想(250万バレル減)に反して120万バレル増の積み増し、中間溜分も市場予想(50万バレル減)に反して10万バレルの積み増しとなったこと、加えて、トランプ大統領がツイッターで三度目のOPEC非難を行ったこと、高値による利益確定売りなどもあって、8月限の終値は前日比1.20ドル安の72.94ドルだった。

週末6日は、朝方、サウジの6月産油量が前月比日量46万バレル増加、ロシアも増産中との報道により、売りが先行したものの、需給ひっ迫感の再認識、ドル安・ユーロ高の進行により、買戻しが増加、反発した。ペーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が863基(前週比5基増)と3週間振りに増加に転じたが、影響は限定的だった。8月限の終値は前日比0.86ドル高の73.80ドルだった。

週明け9日は、カナダのオイルサンド生産施設からの供給再開見通しの報道で売りが先行したが、イラン制裁拡大など根強い需給ひっ迫感による買いで、わずかに値上がりした。8月限の終値は前日比0.05ドル高の73.85ドルだった。

10日は、ノルウェー沖合油田でストライキが発生、RDシェルも一部油田からの出荷停止を発表するなど、需給逼迫懸念が増幅され、3営業日続伸した。ただ、ポンペオ米国務長官がイラン制裁再開に伴う例外措置の検討に前向きな発言があり、上値は抑えられた。8月限の終値は前日比0.26ドル高の74.11ドルとなった。

11日は、リビアの原油輸出再開、サウジアラビアの増産が

すでに開始されていたとの報道などから反落した。8月限の終値は前日比3.73ドル安の70.38ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月渡し)は、前週75.00~75.50ドルの範囲で推移した。7月5日74.80ドル、6日74.40ドル、9日74.70ドル、10日75.70ドル、11日75.50ドルで推移した。

為替は、前週110.05~110.94円の範囲で推移した。7月5日110.43円、6日110.73円、9日110.49円、10日111.06円、11日110.93円で推移した。

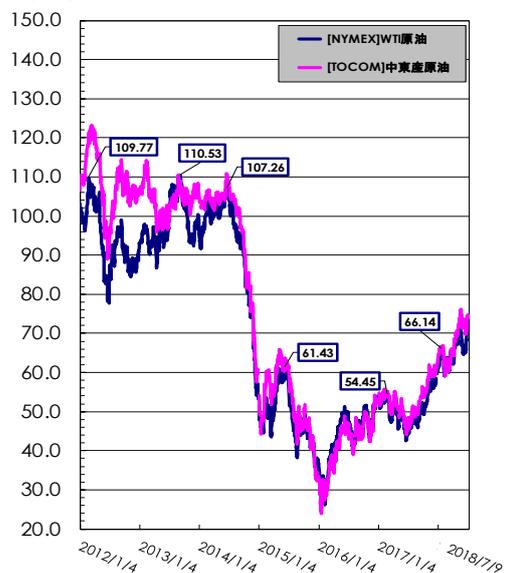
財務省が6日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、6月中旬の原油輸入平均CIF価格は、52,772円/klとなり、前旬を1,279円上回った。ドル建てでは76.78ドルで前旬比2.45ドル高。為替レートは1ドル/109.28円。

主要元売会社の7月第3週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。原油価格はわずかに値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油調達コストはわずかに値上がりした。

そのような中で、7月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.3円の値上がり、灯油は同2円(18%ベース)の値上がりだった。ガソリンは5週振りの値上がり、軽油も5週振りの値上がり、灯油は3週振りの値上がりだった(18%ベース)。この週(7月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の値上げとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	7/1 ~ 7/7	3,131 ▲ 313	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	80.0 ▲ 8.0	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	7/7	12,887 ▲ 206	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	7/9	74.11 ▼ -0.71	▲ 28.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	7/9	73.85 ▼ -0.09	▲ 29.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月中旬	76.78 ▲ 2.45	▲ 24.65
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	52,772 ▲ 1,279	▲ 16,414
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.28 ▲ 0.84	▲ 1.60
	外国為替TTSレート (¥/\$)	7/9	111.49 ▲ 0.38	▲ 3.68

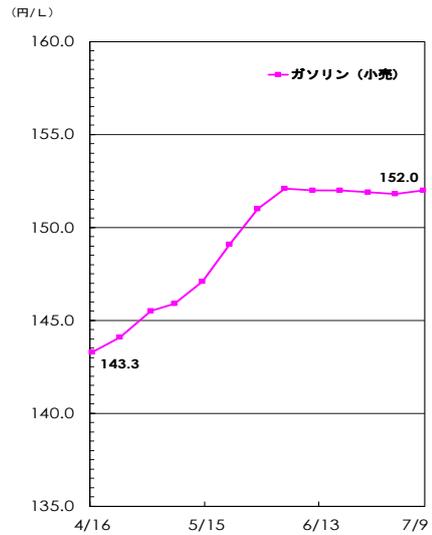
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/1 ~ 7/7	931 ▲ 69	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,030 ▲ 167	▲ -	
	輸出	"	52 ▼ -14	▲ -	
	在庫	7/7	1,456 ▼ -151	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/3 ~ 7/9	68.8 ▲ 1.6	▲ 18.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/3 ~ 7/9	65.0 ▲ 0.3	▲ 15.6
		(TOCOM/中部)	7/9	65.5 ▼ -0.5	▲ 16.6
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/9	152.0 ▲ 0.2	▲ 21.6	

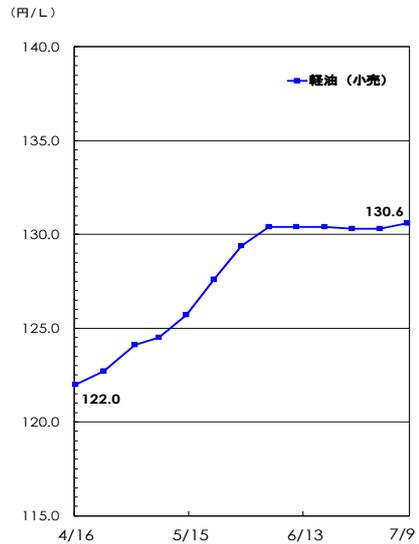
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

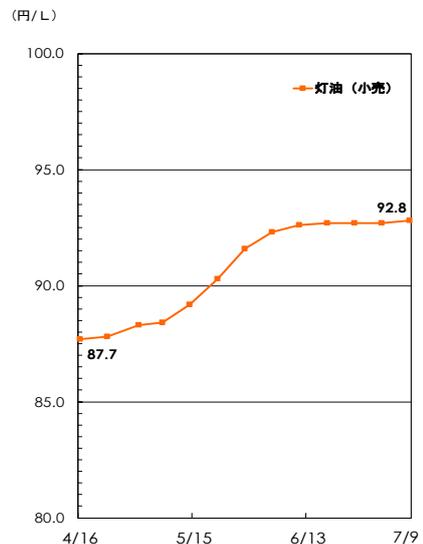
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/1 ~ 7/7	709 ▲ 49	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	666 ▲ 74	▼ -	
	輸出	"	44 ▼ -103	▼ -	
	在庫	7/7	1,414 ▼ -2	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/3 ~ 7/9	69.8 ▲ 1.4	▲ 21.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/3 ~ 7/9	70.0 ▲ 2.3	▲ 22.0
		(TOCOM/中部)	7/9	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/9	130.6 ▲ 0.3	▲ 20.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	7/1 ~ 7/7	96 ▼ -8	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	123 ▲ 38	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	7/7	1,512 ▼ -28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	7/3 ~ 7/9	69.1 ▲ 1.6	▲ 21.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	7/3 ~ 7/9	68.7 ▲ 0.6	▲ 21.4
		(TOCOM/中部)	7/9	68.0 ▼ -0.2	▲ 20.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	7/9	92.8 ▲ 0.1	▲ 16.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

7月11日のNYMEX市場WTI原油は、リビア国営石油が、不可抗力条項により停止していた原油輸出を再開すると報じられたこと、11日発表されたOPEC(石油輸出国機構)の月報で、サウジアラビアの原油生産がすでに6月から大幅増産となっていたことなどから、投資家心理を圧迫し反落した。また前日のポンペオ米國務長官による、イラン制裁への例外措置設定の可能性についても、引き続き下げ圧力として作用した。8月限の終値は前日比3.73ドル安の70.38ドル、9月限の終値は前日比3.70ドル安の68.86ドルだった。

EIAによると、7月9日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.3セント値上がり1ガロン2.857ドル(84.0円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比0.7セント値上がり3.243ドル(95.4円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルも2週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年7月1日～7月7日に休止したトッパー能力は51.5万バレル/日で、前週に対して19.3万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は313.1万klと、前週に比べ31.3万kl増加。前年に対しては27.1万klの減少。トッパー稼働率は80.0%と前週に対して8.0ポイントの増加、前年に対しては6.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/8.0%増、ジェット/10.5%減、灯油/7.4%減、軽油/7.4%増、A重油/3.5%増、C重油/46.0%減。今週のC重油の輸入は3.8万kl(前週比2.3万kl増)。軽油の輸出は4.4万kl(前週比10.3万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェット、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は103.0万kl(対前週19.3%増)と前週比で2週振りに増加となり、15週振りで100万klを上

回った。

ジェット10.7万kl(対前週26.4%増)、灯油12.3万kl(対前週46.0%増)、軽油66.6万kl(対前週12.6%増)、A重油19.3万kl(対前週1.6%減)、C重油18.0万kl(対前週29.9%減)。

(単位:千KL)

	今週 (7/1 ~ 7/7)	前週 (6/24 ~ 6/30)	前週比
ガソリン	1,030	863	▲ 167 (19%)
ジェット燃料	107	84	▲ 23 (27%)
灯油	123	85	▲ 38 (45%)
軽油	666	592	▲ 74 (13%)
A重油	193	196	▼ -3 (-2%)
C重油	180	257	▼ -77 (-30%)
合計	2,299	2,077	▲ 222 (11%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

7月7日時点の在庫は、ジェットで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは145.6万kl、前週差15.1万kl減。前年に対しては31.6万kl少ない。

灯油は151.2万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては9.3万kl少ない。

軽油は141.4万kl、前週差0.2万kl減。前年に対しては9.9万kl少ない。

A重油は72.6万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては7.0万kl少ない。

C重油は197.6万kl、前週差5.1万kl減。前年に対しては13.2万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (7/7)	前週 (6/30)	前週比
ガソリン	1,456	1,607	▼ -151 (-9%)
ジェット燃料	1,036	946	▲ 90 (10%)
灯油	1,512	1,540	▼ -28 (-2%)
軽油	1,414	1,416	▼ -2 (-0%)
A重油	726	743	▼ -17 (-2%)
C重油	1,976	2,027	▼ -51 (-3%)
合計	8,120	8,279	▼ -159 (-1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

7月3日から7月9日の原油価格は前週対比でわずかに値上がりし、為替レートはやや円安で、原油コストはわずかに値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、7月3日から7月9日までの間、ガソリン121~123円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油68~70円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、灯油67~69円台で値上がり後ほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン124円台で横ば

い、軽油70~71円台で大きく値上がり後横ばい、灯油68円台でわずかに値上がり後横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン118~119円台で出入り後値下がり、軽油68~71円台で大きく値上がり、灯油68~69円台でわずかに値下がりして推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種・全取引とも値上がりした。

7月第3週(7月12日~7月18日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(7月3日~7月9日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油も1.6円の値上がり、軽油は1.4円の値上りだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は1.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.3円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は2.3円の値上がりだった。原油価格はわずかに値上がりし、為替もやや円安で、原油コストはわずかに値上がりした。

7月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (7/3 ~ 7/9)	前週 (6/26 ~ 7/2)	前週比
レギュラー	68.8	67.2	▲ 1.6
灯油	69.1	67.5	▲ 1.6
軽油	69.8	68.4	▲ 1.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (7/3 ~ 7/9)	前週 (6/26 ~ 7/2)	前週比
レギュラー	65.0	64.7	▲ 0.3
灯油	68.7	68.1	▲ 0.6
軽油	70.0	67.7	▲ 2.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (7/3~7/9実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.6	▲ 0.3	▲ 0.9
灯油	▲ 1.6	▲ 0.6	▲ 1.1
軽油	▲ 1.4	▲ 2.3	▲ 1.8
A重油	▲ 1.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

7月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の152.0円、軽油は同0.3円高の130.6円、灯油も同0.1円高の92.8円(18%ベースでは2円高の1,670円)だった。ガソリンは5週振りの値上がりで、7週連続150円を上回った。軽油も5週振りの値上がり、灯油は3週振りの値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは31都県、横ばい7道県、値下がり9府県だった。横ばいは、北海道ほか6県だった。

全国最安値は徳島県の145.4円(同0.8円高)、次が埼玉県の147.4円(同0.2円安)、最高値は長崎県の160.7円(同0.1円安)だった。最も値上がりしたのは、1.3円高の福井県(153.5円)・群馬県(151.3円)・愛知県(151.0円)、最も値下がりしたのは、0.5円安の大阪府(151.1円)だった。

先週の原油コストは大きく値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに2.0円の値上げとなった。今週の原油価格はわずかに値上がりし、為替レートはやや円安で、原油コストはわずかに値上がりした。次週(7月17日)のガソリンの小売価格は小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (7/9)	前週 (7/2)	前週比	直近高値
レギュラー	152.0	151.8	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	92.8	92.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	130.6	130.3	▲ 0.3	08/8/4 167.4

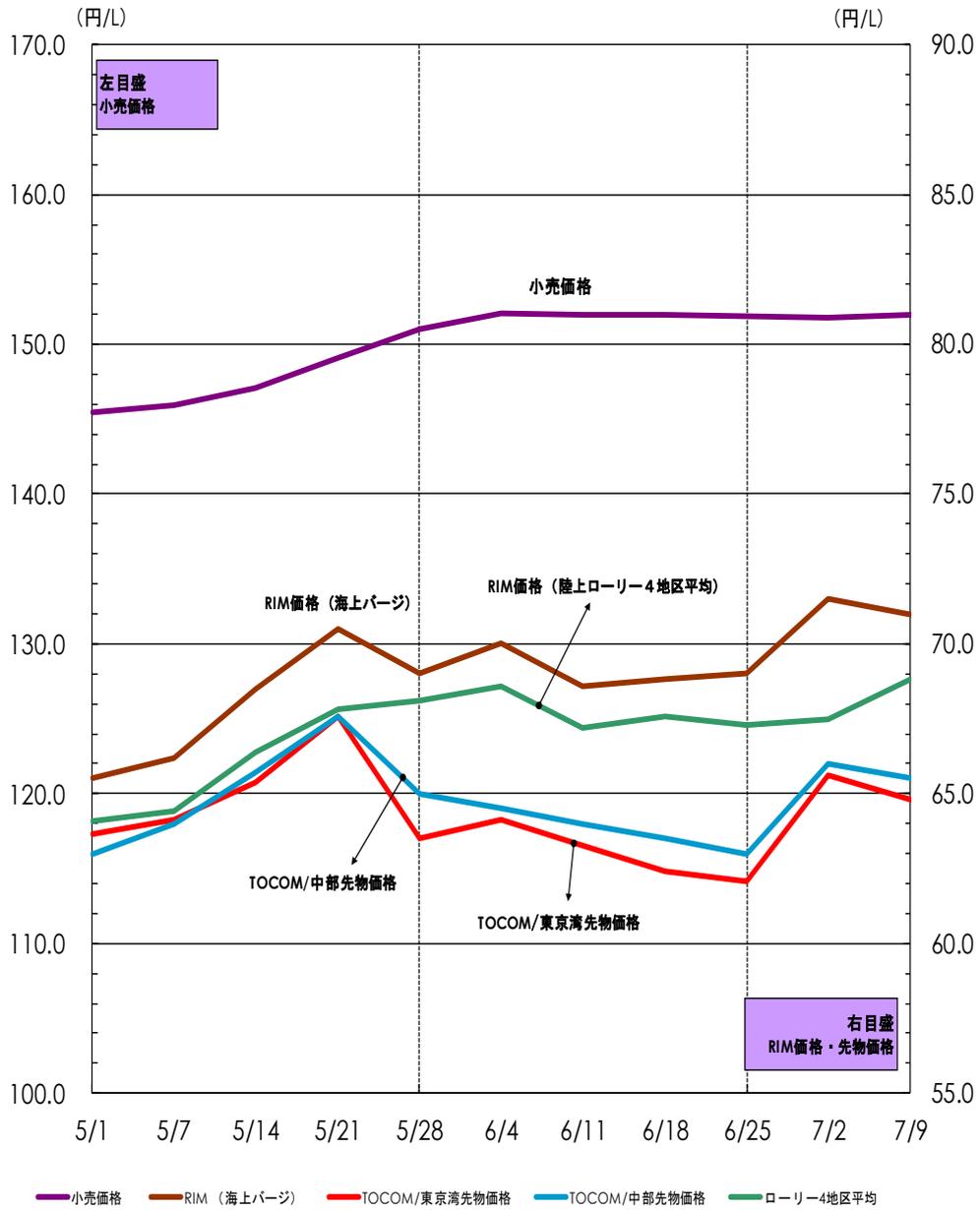
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/5/1 ~ 2018/7/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第15号)の公表は、7/20(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。